

(様式1・小学校用①)

令和2年度 学校評価報告

草加市立新栄小学校

(令和3年2月2日作成)

1 学校教育目標 なかよく : 豊かな人間性とコミュニケーション かしこく : 学ぶ意欲と確かな学力 たくましく : 心身の健康と体力 【目指す学校像】 一人ひとりの子どもが輝く学校	
2 重点目標・努力目標 <ul style="list-style-type: none">・ 確かな学力を育む教育の推進・ 豊かな人間性とコミュニケーション力を育む教育の推進・ 体力向上・健康教育の継続・ 一人ひとりに応じた生徒指導・教育相談の推進・ 安全で潤いのある教育環境づくり・ 地域とともに歩む学校づくりの推進・ 学校事故の防止と教職員事故の根絶	3 前年度の成果と課題 成果 ○ 幼保小中を一貫した教育の研究発表において中学校区での取組を市内外に発信することができた。 ○ 学校評価アンケートで「特色ある教育活動」「安全で安心な学習環境」等の項目で高評価を得た。 課題 ● 基礎学力の定着や学力の向上、基本的な生活習慣の改善、あいさつ、学校ホームページの計画的な更新

4 評価表 ※評価基準 [A : 十分達成している B : おおむね達成している C : やや不十分である D : 不十分である]				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	・ 学校経営目標、方針 ・ 校務分掌組織 ・ 適所への適材配置 ・ 職員会議等の運営 ・ 予算の執行・決算、監査等	B	○ 急な判断を要する時期があったが、適宜、企画委員会・職員会議を開催し、組織的に対応することができた。 ● 病休等により負担に偏りが見られたため年度途中であっても分掌組織の見直しを図る必要がある。
	②研究・研修	・ 研究組織、計画、実施 ・ 校内研修の推進 ・ 授業改善への取組 ・ 校外研修会への参加 ・ 人材育成	B	○ 学習意欲をテーマに4ブロックごとに研究授業を開催し研鑽することができた。 ● 次年度から研究委嘱に積み重ねが見えるよう今年度のまとめを確実に行う。
	③保健管理・安全管理	・ 保健計画、安全計画 ・ 環境衛生の管理 ・ 健康観察、安全点検 ・ 緊急事態発生時の対応 ・ 危機管理マニュアルの作成・活用	A	○ 感染症対策の掲示物、お願いや啓発の手紙の配付、ソーシャルディスタンスの表示等、感染防止対策の徹底ができた。 ○ 昨年度の反省をもとに警察署職員を招聘し、不審者対応の研修、訓練を実施した。
	④情報管理・施設設備管理	・ 個人情報の管理、保護 ・ 施設設備の管理と有効利用	A	○ 規定に従い、個人情報の管理を日常的に行っている。 ○ 毎月、各担当で安全点検を行い、危険個所の確実な把握と速やかな補修に努め、場合によっては修繕依頼を行った。
	⑤地域との連携 開かれた学校	・ 学校情報の発信 ・ 学校公開の実施 ・ 学校運営協議会の推進 ・ 地域、校種間連携 ・ PTA活動の活性化	B	○ 外部支援員を活用してホームページをリニューアルし、発信を増やしている。 ○ 今年度学校運営協議会が発足し、6名の委員から学校経営方針を承認される等、4回の協議会を開催し、協議を重ねた。 ● コロナ禍における議題の持ち方やその解決策等が難しく感じた。
	⑥幼保小中を一貫した教育	・ 目指す子ども像の共有 ・ 15年間を通じたカリキュラムの編成 ・ 一貫教育推進のための組織づくり	B	○ 大規模な合同研修会等は行えなかったが定期的にリモートや電話による情報共有や連絡を取り合い、昨年度の研究発表の成果の継承とさらなる充実のために取組を進めることができた。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> 15年間を通じたカリキュラムの編成、実施 教育計画の作成 教育活動の評価 目標、方針の周知 授業時数の配当、確保 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○授業時数を確保するため年間行事計画を見直し、時数配当を行うことにより当該学年での指導内容の履修を実現させた。 ●活動制限のある教科についても制限解除後、活動の充実を図る。
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善 評価、評定の工夫 外部人材の活用 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○飛沫感染防止ボードを活用し、対話を重視した授業改善を行った。 ○中学校区で連携して家庭学習チャレンジ週間の取組を行うなど、家庭学習について啓発し、充実を図った。
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の作成 各教科との関連 道徳的実践力の育成 家庭、地域社会との連携 いのちの教育の推進 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○学級における指導計画に沿って教科化となった道徳の授業を行っている。 ○教科化となった道徳の授業展開や評価の仕方についての共通理解を図った。
	④外国語・外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導方法の工夫と改善 評価、評定の工夫 各教科、道徳教育との関連 中学校との連携 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○指導内容を工夫しながら外国語の授業を進めることができ、9割の児童から英語に慣れ親しんだとの回答を得た。 ○限られた時間の中でALTとの打ち合わせを行うことができた。
	⑤特別活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 学級活動、学級経営 学校行事 児童会活動 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○実施できないものもあったが、工夫して行事を実施することができた。 ○代表委員の児童が中心となっていじめ撲滅や廊下歩行の呼びかけを行った。
	⑥「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導内容の充実 指導方法の工夫と改善 評価の工夫 地域の人材・物的資源の活用 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○地域人材・関係機関との連携を図り、可能な限り体験活動を行うことができた。 ●今年度実施した単元をもとに、指導計画・指導内容の見直しを図る。
	⑦生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 組織的な生徒指導 問題行動への対処 教育相談、児童理解 いじめ防止対策 保護者、地域、諸機関との連携 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○「即今着手・複数対応・即日解決」「報告・連絡・相談・見届け・アフターケア」の合い言葉のもと、組織的・機動的に問題行動等への早期対応ができた。
	⑧キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> 計画の立案 指導内容の充実 中学校との連携 啓発的経験の充実 家庭、地域との連携強化 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○キャリアパスポートの学校全体での取り組みを開始し、学級活動の単元で児童自身のキャリア発達の記録・蓄積を始めることができた。
	⑨特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> 個別の指導計画、支援計画 指導方法の工夫と改善 通常学級との交流 諸機関との連携 校内支援体制の整備 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○特別支援学級との交流・共同学習の推進や通常の学級における特別に支援の必要な児童へ教育支援室との連携による対応を行うことができた。
	⑩学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画、支援計画の作成 図書館補助員の活用 諸機関との連携 図書館の整備 図書館利用の工夫 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○年間を通じて児童の読書への意欲を高める取組とともに学級単位での貸出時間の設定を行うことで、6月以降の貸出合計が昨年度を上回ることができた。
	⑪情報教育	<ul style="list-style-type: none"> 教育計画の作成 校内研修の充実 ICT機器の積極的な活用 情報モラル教育の推進 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○タブレットを用いた授業やプログラミング学習等、ICT使用が活発化した。 ●教職員へのリモート学習の研修を実施したが、さらなる資質の向上が必要。
	⑫人権教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の策定 各教科との関連 人権感覚の育成 校内研修の充実 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○感染症感染者やLGBTに関する校内研修を実施し、全職員で人権問題についての共通理解を図った。 ●指導計画への新たな位置づけや見直し。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
Ⅲ 特色 ある 学校 づくり	①食育	・多種多様な給食活動	B	○多様な給食活動ができなくなる環境下、感染防止ボードを含む12の約束を守りながら安全な給食活動を行った。 ●誕生会給食、スカイラウンジ給食、交流給食に代わる特色ある給食様式を模索していく。
	②安全安心・美のある学校	・安全で美しい環境整備	A	○保護者・地域等と協力して登下校の安全確保に努めており、保護者からも好評価を得ている。 ○植栽ボランティアとの交流活動が年1回となったが、1年中、花の絶えない学校となるよう努めた。 ●ボランティアの確保。

5 総合評価 (学校関係者評価を含む)

- ・保護者の学校評価アンケートでは、「できている」「だいたいできている」の好评価(90%以上)を得た項目が昨年度の20項目中13項目から16項目に増加した。家庭学習に関する項目で5%、生活習慣に関する項目で6%評価を上げており、家庭学習チャレンジ習慣や生活リズムばっちりカード等、保護者への啓発、呼びかけを強化した効果が現れている。
- ・保護者や地域の方が見守る安全・安心の中で大きな事故もなく、児童は安全な登下校ができています。特に分散登校期間では、事前に連絡調整を行い、変則的な登下校時刻においても児童の安全を確保することができた。
- ・今年度は感染症感染防止と学びの保障が最重要課題となった中、給食や生活時のルールを徹底や手紙等での周知により、児童・保護者の意識の向上を図ることができた。また、密を避けた校外学習や行事の仕方を工夫し、安全を徹底して修学旅行等の校外学習や運動会を実施することができ、多くの保護者からの感謝の言葉と信頼を得ることができた。

6 次年度の改善策

- ①県学力学習状況調査の結果から、伸びは県を上回ったものの、国語を中心に県平均を下回る状況にある。研究テーマである「学ぶ意欲を高める指導の工夫」を継続して授業改善を図り、「自己肯定感・自己有用感」を高めることにつなげ、基礎学力の定着や向上に学校全体で取り組んでいく。
- ②基本的な生活習慣である「6時30分起床」等について、改善がみられるものの、依然としてできていない割合が約30%と高い状況が続いている。成果のあった取組を中心に効果のある指導を行うとともに、引き続き保護者会等で家庭への啓発を行っていく。
- ③次年度の状況により今年度制限された活動の充実や、新たな行事の在り方等を学校運営協議会の承認を受け、展開できるよう計画・運営に努めていく。
- ④児童のあいさつのさらなる向上をめざし、生徒指導部を中心に、あらためて学校全体で取り組んでいく。
- ⑤学校応援団の高齢化による人材確保が課題である。地域の行事に顔を出したり、学校だよりで呼びかけたりするなど、人材確保を行っていく。